

市立角館総合病院建設に関する 調査特別委員会の審査経過

議会では、移転新築される角館総合病院の建設について、調査や研究を行うために平成23年11月30日に特別委員会を組織して議論をしてきました。

これまでの調査研究の主な経過をお知らせします。

市は、平成27年の秋のオープンを目標にして、角館病院の移転新築を計画しています。

移転する場所は、落合公園周辺で、基本設計ができあがり、現在は実施設計に入っています。いよいよ、来年度(平成26年度)から建築工事が始まる予定です。

新しい角館病院の機能はこれまでと同じです。規模としては、人口に適した一般病床数が230程度とされていますが、田沢湖病院が60床ですので、角館病院の一般病床数は170床と、現在の病床数より少なくなります。

新しい病院の特徴は、3階建ての病院の1階に外来の診察部門を全て配置して、2階

には170の病床を集中配置するという全国でもあまり例がない配置としています。こうした配置により、患者さんにとつて、より使いやすさと診療の効率化を図っています。

また、患者さんの「待ち時間」を短縮するために、準備が整い次第に電子カルテを導入する計画も含まれています。

総事業費は、建設費や医療用の機器を含めて約73億6千万円と予定されています。

これまでの議論を通じて心配されることもいくつかあります。

それは、これからの2つの病院経営です。

2つの病院に共通する大きな課題の一つに、医師や看護師などの医療スタッフの不足があげられます。一人でも多くの常勤医師を確保するために、市長や医療管理者は奔走していますが、なかなか厳しい状況です。

もう一つは、人口が3万にも満たない仙北市が、2つの市立病院を運営する難しさです。

今のところ、田沢湖病院は長期療養のための慢性的な症状に対応する機能を担い、一方の角館病院は、しっかりと急性期に対応する病院として、互いに機能を補完し合い、どちらも仙北市の病院として位置付けて経営するという市の方針です。

この目標を達成するためには、2つの市立病院や各診療所との連携や、それぞれの医療スタッフの連携などにおいて、総合プロデュースを目的にしている医療局の役割が問われています。

角館病院の移転新築に伴い、新角館病院の建設だけではなく、これからの病院経営のあり方についても提言をしていきたいと考えています。

市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会委員長

小田嶋忠



「市立角館総合病院外観イメージ」



一階平面構成